



【感染症だより】

～インフルエンザについて～

インフルエンザシーズンも後半に入りました。2月にしみず小児科・内科クリニックで検出されたインフルエンザはB型がA型よりも多い結果でした。東京都の感染症発生動向調査における今シーズンの検出状況は、AH1pdm09型が55.7%、AH3型が26.2%、B型が18.0%で、東京都全体で見るとA型が多い結果でした。A型といっても、2009年から出現したAH1pdm09型がいまだ主流です。この型の特徴として、喘息の方や糖尿病などの基礎疾患のある方に重症な肺炎を起こすことが知られています。ですので、基礎疾患をお持ちの方はインフルエンザワクチンを毎年11月ごろに接種されることを特にお勧め致します。基礎疾患がない健康な方でも小児ではインフルエンザ脳炎を起こすことがありますので、重症化を防ぐためにワクチンをお勧めします。

～おたふくかぜについて～

例年と比較して多いのがおたふくかぜ（流行性耳下腺炎）です。これは、ムンプスウイルスという病原体による感染症で、患者の咳やくしゃみによって（飛沫感染）、あるいはウイルスが付着した手で口や鼻に触れることで感染（接触感染）します。潜伏期間は2-3週間で、突然の発熱、両側、あるいは片側の耳の下（耳下腺）の腫れと痛みが起こります。2-3日のうちに両側とも腫れがみられ、顎の下（顎下腺）にも広がる場合があります。感染してもまったく症状が出ない（不顕性感染）ことが30%程度とされています。通常は1-2週間で軽快しますが、まれに髄膜炎、難聴、精巣炎などの合併症をおこすことがあります。特効薬は無く、治療の基本は解熱鎮痛剤などの対症療法です。難聴になってしまうと一生回復することはありません。かかった後には、聴力が落ちていないかどうか注意しましょう。学校保健法で定められている出席停止期間は症状発現後から5日間となっていますが、5日以内に治まることは少ないですので、自宅でしっかりと療養しましょう。また、年長児では頭痛、嘔気・嘔吐で始まる髄膜炎を合併することがあります。そのような症状がみられた時には、医療機関を受診しましょう。予防にはおたふくかぜワクチンがあります。2度接種することでより高い予防効果が得られます。日本ではまだ定期接種化されていませんが、世界各国では定期接種されているワクチンです。

文責： 清水マリ子

	感染症	患者数
1	インフルエンザ B	116
2	インフルエンザ A	97
3	胃腸炎	51
4	おたふくかぜ	19
5	溶連菌	12
6	RSウイルス	1

表：2月しみず小児科・内科クリニックで検出された流行性の感染症

